並木幼稚園だより

[建学の精神]
感性の豊かな「日本の心」を持った真の国際人の育成

令和2年度　12月号
学校法人志賀学園並木幼稚園
発行者:園長　渡部栄城

早いもので 12 月です。師走です。1 年を振り返ると、「コロナ、コロナ、コロナ」だったように思えます。でも、そのような状況でも、4 月 21 日から 5 月 31 日までの 41 日間の臨時休園はありましたが、その後は、通常保育が再開し、密を避けながらですが、園児たちが以前のように園生活を過ごすことができるようになったのは何よりと思っています。親子遠足は中止としましたが、夏祭り、運動会は、コロナ対策をしながらでしたが無事実施できたことも何よりでした。そして今、生活発表会を 11 月 24 日から 7 日間に渡ってですが実施できていることも何よりと思っています。

行事には、それぞれのよさ・特徴があります。生活発表会は、子どもたちを「テレビで視るヒーロー・ヒロイン」に導いてくれるのではと思っています。親御さんとしては、まさに我が子の晴れ姿・演技は、地球上最高のヒーロー・ヒロインとして映っているのではと思っています。

話は変わります。
ある子どもが言いました。「ぼくのお父さんは日本一です」
別の子どもが言いました。「ぼくのお父さんは日本一です」
また、別の子が言いました。「ぼくのお父さんは日本一です」
以上、3 人の子どもが言ったことは、うそでしょうか？
「お父さん」は、「お母さん」にもなりますし、「おじいちゃん」「おばあちゃん」にもなります。
それぞれの子どもにとっては、本当のことだと、私は思います。それでいいと思います。

ちなみに、高校野球が始まると、テレビの前には「日本一の監督が出現する現象」があります。プロ野球でもしかりです。オリンピックとなると、世界一の監督となったりします。解説者を超える解説をしては、日本一、世界一の監督と自負します。　　　かく言う私も、その一人です。

12 月となると流行語大賞、今年の漢字が発表されます。私も、年によっては、その年の漢字を発表することがあります。今年は、今年の漢字がふつふつと浮かんできたのでこの場を借りて発表させていただきます。その漢字は、「頑張る」の「頑」です。毎年私なりに頑張ってきましたが、今年は、今までになく頑張ったからです。コロナの影響で、これまでにない予期せぬ仕事が数多く勃発し、これまでにない行事のやり方を模索しなければならず、これまでにない気苦労が数多くあったのですが、なんとかそれらとの闘いに頑張ってきたからです。なお、これは私一人のことではなく、並木幼稚園職員全員に言えることだったからです。

私としては、つい最近、昨年の本園の生活発表会の DVD を視ることができました。もちろん生が一番ですが、DVD のよさも思い知りました。それは、当たり前ですが、繰り返し視られること。また、アップで撮っている場面もあり、生以上に園児の表情や動きが分かったことなどです。そして、プロのビデオ屋さんの映像ですから、とてもきれいで（園児たちがきれいであることが第一の要素ですが）迫力もあるということです。別に、ビデオ屋さんの宣伝をしているわけではありませんが、私としては、アカデミー賞に匹敵するすばらしい作品だと思っています。つまり、私は、撮影現場を生で観て、その後アカデミー賞に匹敵するすばらしい作品を何度も視ることができる幸せ者だということが分かりました。

今年、今でも時々思い出す場面があります。それは、園バスで、園児たちが降りようとしたとき、我先にと出口の所が込み合うのがいつもの光景です。大きな男の子が私の視野に先に入り次に小さい女の子が私の視野に入り、男の子が動き出したので、ここは大きい男の子が先に降りると思った矢先、男の子は降りようとするのを止めたのでした。そうするのがまるで当たり前のように。厳密には、小さい女の子が先に降りるのを待ったのでした！！　私は一瞬「ハッ」とし、思わず「ジェントルマン！」と言いかけたのでした！！　「日本一の幼稚園児！」と思ったのでした！！

来年が良い年になりますよう心よりご祈念申し上げます